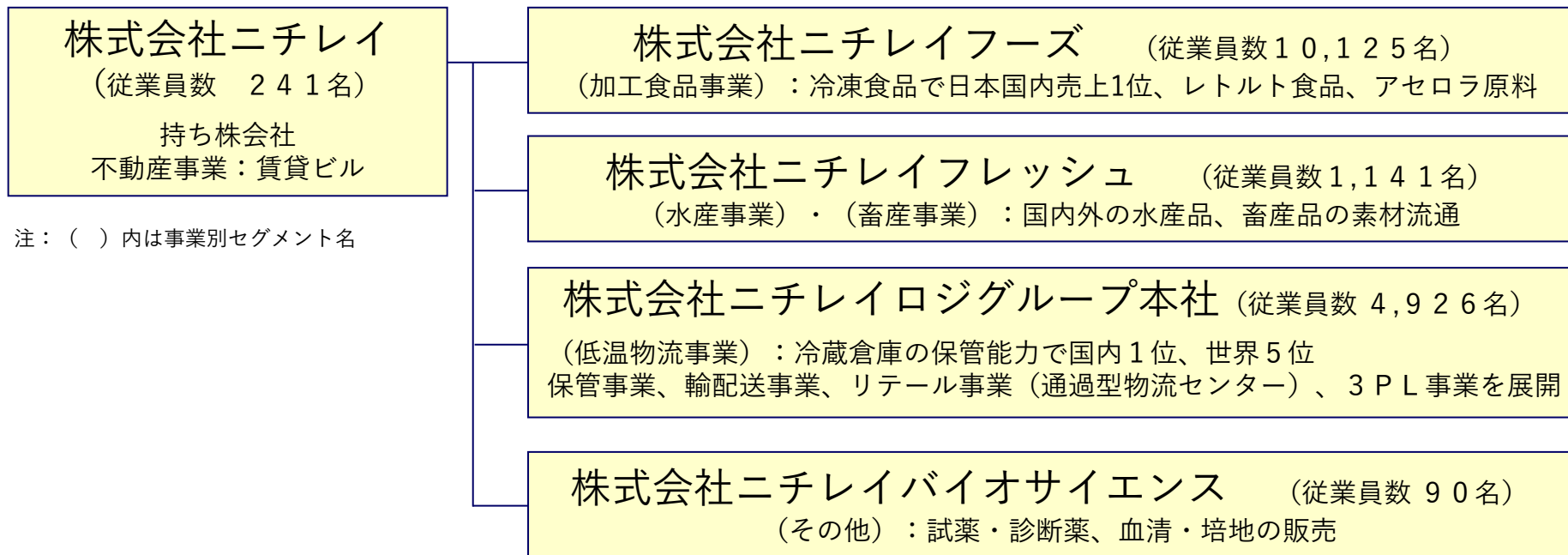


事業概要説明資料

株式会社ニチレイ
証券コード：2871



設立：1942年12月24日
 創立：1945年12月1日
 グループ：子会社80社、関連会社15社
 従業員数：16,626名
 代表取締役社長：大櫛 顕也
 本社：東京都中央区築地
 上場市場：東証プライム（2871）
 「日経225」
 「JPX 日経インデックス400」構成銘柄

< 外部評価 >
 (インデックスへの組み入れ状況)
 「FTSE4Good Index Series」 「FTSE Blossom Japan Index」
 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
 「MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数」
 「MSCI 日本株 女性活躍指数 (WIN)」 「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」
 「Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index」
 「MSCI ESG ratings」 AA
 (東証テーマ銘柄の認定状況)
 「健康経営銘柄2023」 「DX銘柄2024」

2025年度～2027年度
中期経営計画

Compass × Growth 2027

グループ中期経営戦略

ー収益力の強化と資本効率の向上ー

- 1 競争優位領域の深掘とグループシナジーの発揮
 - チキン加工品・米飯類／冷凍食品物流プラットフォーム
 - 食品事業統合
- 2 地域別戦略にもとづく海外事業拡大
 - 欧州、ASEAN、北米
- 3 人的資本経営の推進とグローバルガバナンス等の構築
 - 人財の確保・育成／エンゲージメント
 - 地域統括会社新設

(財務目標) 売上高 8,000億円、海外売上高比率 30%、
営業利益率7.0%、ROIC 8%以上

新長期経営目標

N-FIT 2035

(Nichirei Future Innovative Tactics)

	2035 年目標	参考： 改定後2030 年目標
営業利益率	10%	8%
ROIC	10%	9%
海外売上高 比率	40%	35%
営業利益 CAGR 2025年3月期実績比	8%以上	—

加工食品事業

- ・冷凍食品のパイオニアで、国内トップメーカー
- ・主力商品は、炒飯やから揚げ
- ・家庭用のほか業務用の取り扱いが大きい



水産事業

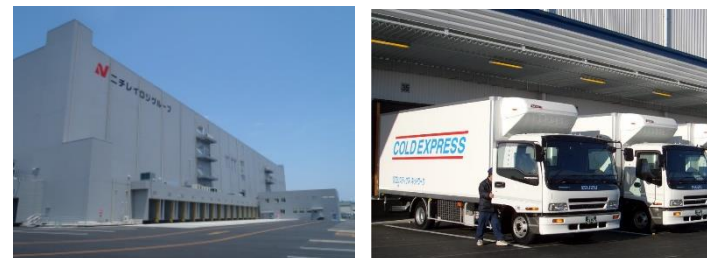
- ・えび・たこ・魚卵・貝類など水産品の調達・加工・販売
- ・持続可能な認証水産品の取り扱い拡大や海外販売に注力

畜産事業

- ・国産および輸入の鶏肉・豚肉・牛肉の調達・加工・販売
- ・「健康価値食肉」など「こだわり素材」の販売を拡大

低温物流事業

- ・全国75カ所に冷蔵倉庫を保有し国内シェアNo.1、海外拠点を含めると世界シェアNo.5
- ・輸配送などトータル物流サービスを展開
- ・ニチレイグループ外の取り扱いが90%超

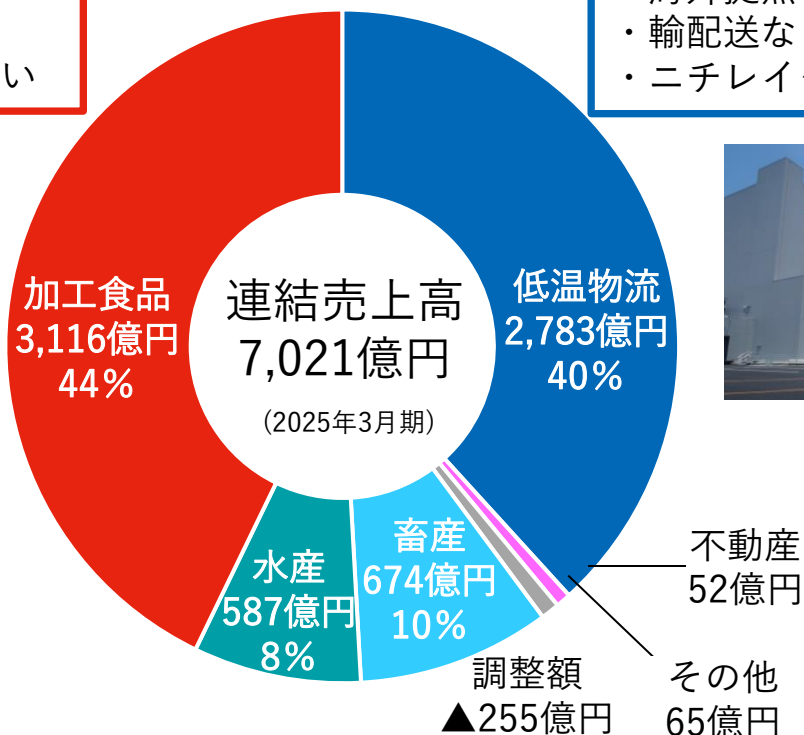


不動産事業

オフィスビルの賃貸
ニチレイ東銀座ビル、明石町ビル、水道橋ビルほか

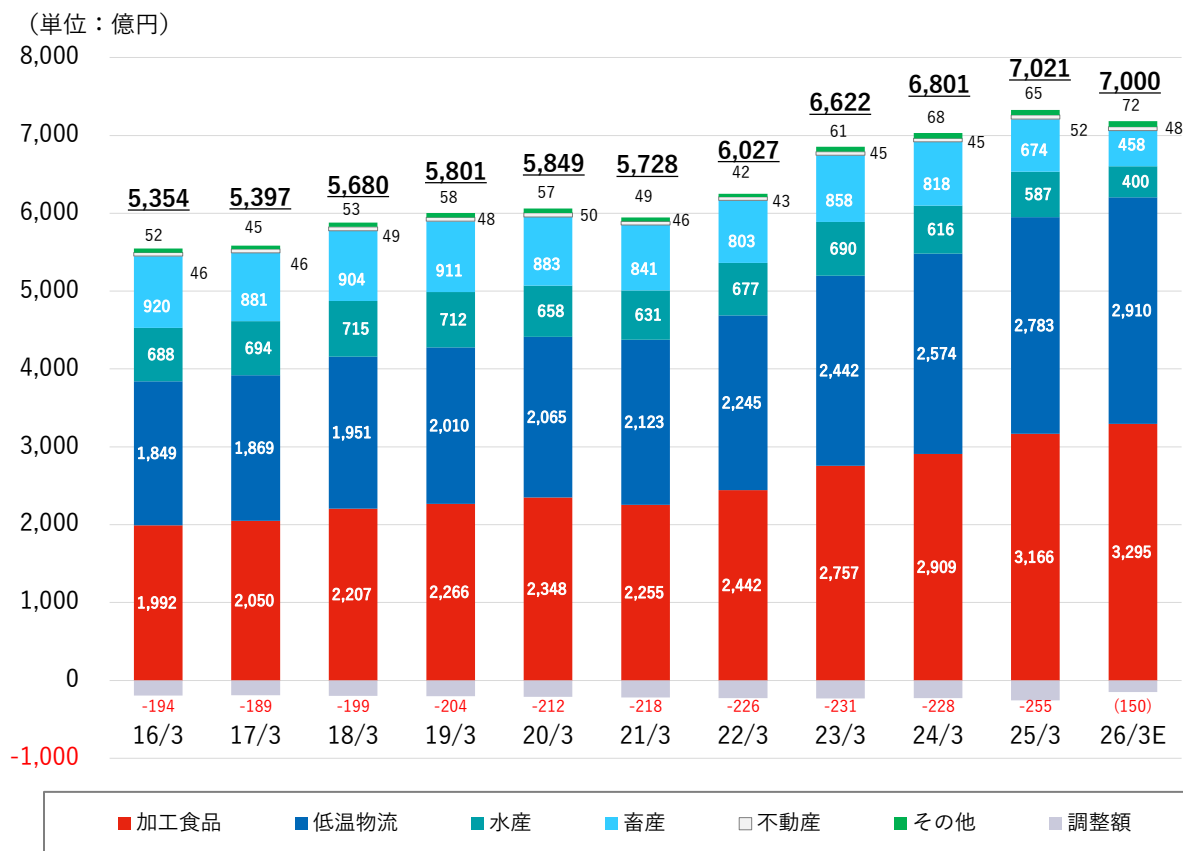
バイオサイエンス事業

- ・がん患者様の適切な治療薬を見つける試薬とその検査装置の製造・販売
- ・インフルエンザ・コロナウイルス診断キットなどの診断薬の製造・販売

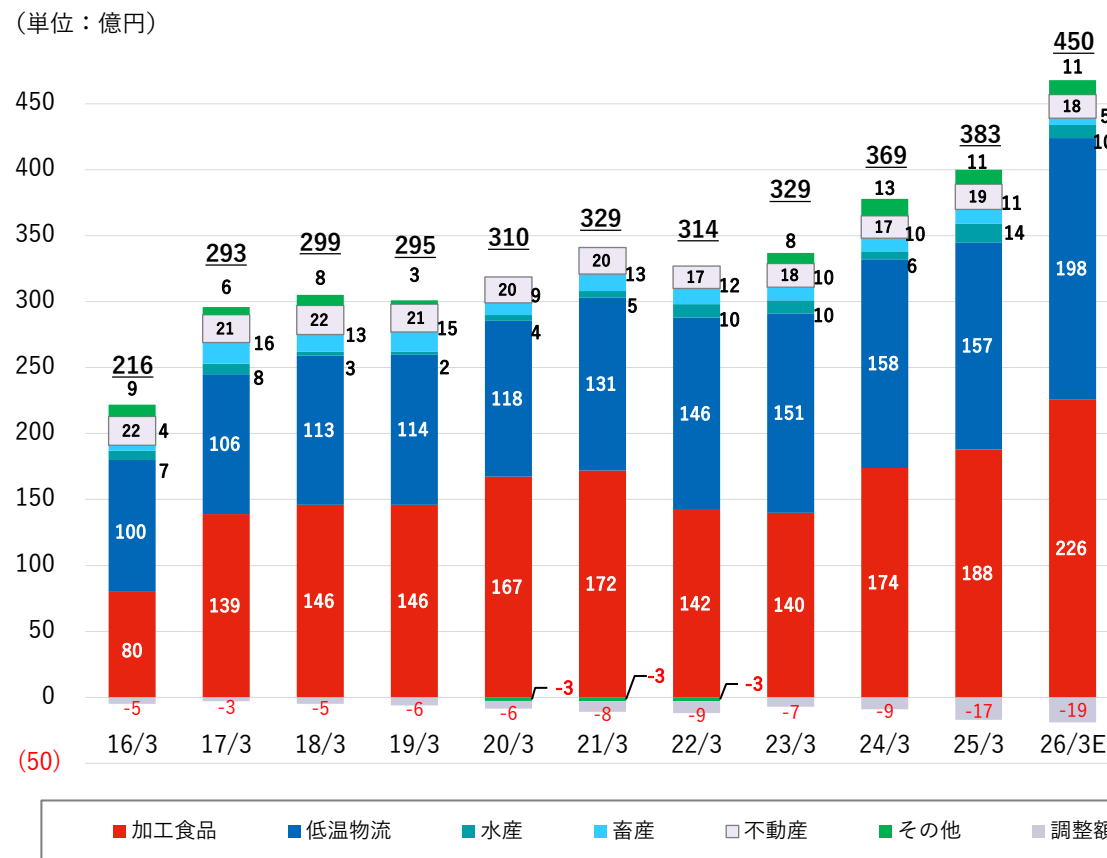


ニチレイのコア・ビジネスは加工食品と低温物流

<セグメント別> 売上高の推移

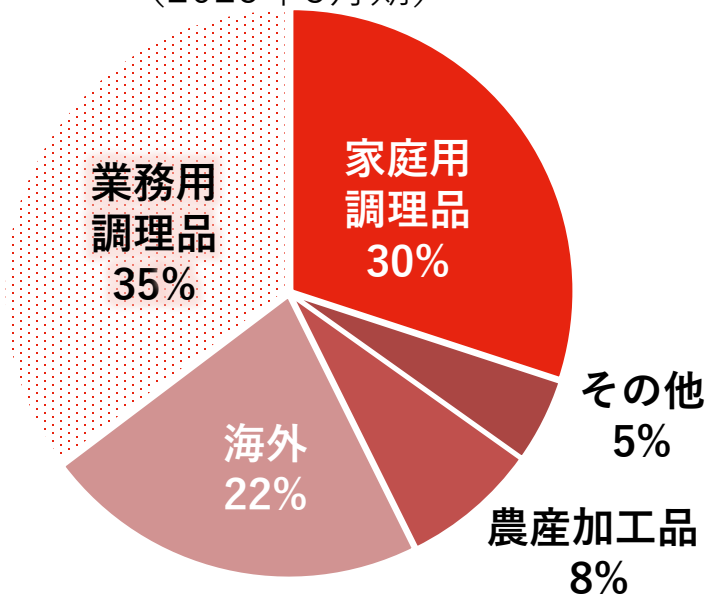


<セグメント別> 営業利益の推移



売上高 3,116億円

(2025年3月期)



<主な取り扱い商品>

家庭用調理品



業務用調理品



農産加工品



海外



その他

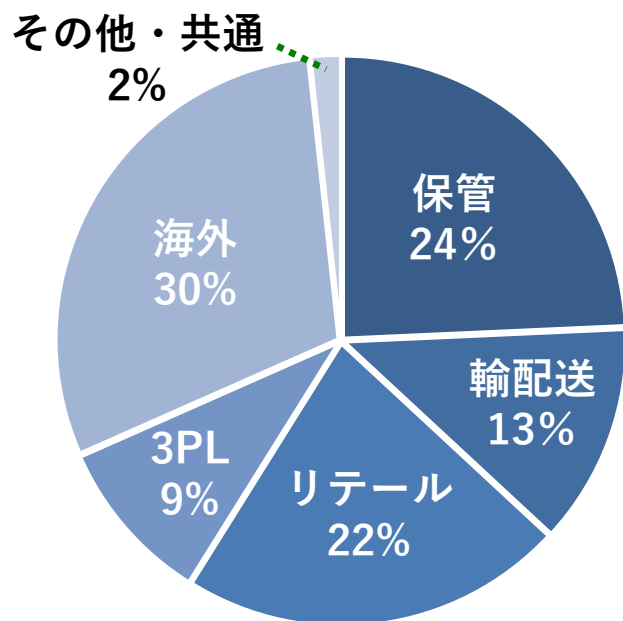


2023年冷凍食品メーカー売上高

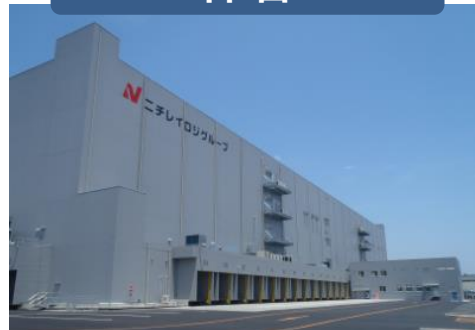
	2023		家庭用：業務用 (比率)
	売上高 (億円)	増減率	
ニチレイ	3,020	4.6%	46:54
A社	2,818	5.5%	63:37
B社	2,234	2.2%	45:55
C社	1,867	3.2%	30:70
D社	1,087	5.6%	60:40

出所：(株)食品産業新聞社「冷食日報」(2023)

売上高 2,783億円
(2025年3月期)



保管



輸配送



海外

欧州、ASEAN、中国で
海上輸送手配・通関・付
帯加工・保管・運送まで
を一貫して行う「ワンス
トップサービス」を提供

リテール



3PL



その他



(当社グループの強み)

設備能力・集荷力

- ・国内保管能力は約157万トンで、シェアトップ（約8%）
- ・物量が多く立地優位性の高い大都市圏のほか、農産・畜産品の生産地にも倉庫を有する

多様なサービス

- ・全国の保管拠点と配送網を活かし、保管・付帯サービス・配送に至るまでトータルサービスを展開
- ・大手小売店様向けの配送センターを約40カ所運営

品質管理・信用力

- ・高品質な運営を可能とするノウハウ
- ・ニチレイブランドの信用力をベースに年間約5000社との取引実績

低温物流事業のポジション



- 当社は冷蔵倉庫の保管能力で世界 5 位、国内 1 位。
国内での保管能力シェアは業界で抜きん出ているが、日本各地に中小の業者が点在しており、シェアの上位集中度が低いことが特徴。
- 当社は輸配送も含めた食品物流業界においても国内 1 位

冷蔵倉庫設備能力 国内 ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力 (トン)	シェア
1	ニチレイロジグループ	1,566,652	8.4%
2	ヨコレイグループ	977,826	5.3%
3	マルハニチログループ	648,476	3.5%
4	C&Fロジ・ホールディングス	588,016	3.2%
5	東洋水産グループ	580,404	3.1%
6	ニッスイグループ	433,339	2.3%
7	(株)松岡	362,717	2.0%
8	(株)ランテック	319,414	1.7%
9	(株)二葉	295,997	1.6%
10	(株)キューソー流通システム	281,658	1.5%
11	鴻池運輸(株)	279,578	1.5%
12	日本物流センター(株)	239,631	1.3%
13	五十嵐冷蔵(株)	235,509	1.3%
14	(株)ハウスイ	215,179	1.2%
15	第一倉庫冷蔵(株)	205,699	1.1%
16	(株)ムロオ	179,354	1.0%
17	(株)兵食	175,973	1.0%
18	藤林グループ	150,620	0.8%
19	山手冷蔵(株)	142,128	0.8%
20	福岡運輸(株)	140,152	0.8%

※出所：日本冷蔵倉庫協会
「冷蔵倉庫の諸統計2023年版」をもとに加工（協会に所属しない冷蔵倉庫は含まれない）

冷蔵倉庫設備能力 世界 ランキング

Ranking	Name	Main Countries of Business	Capacity (1,000 tonnes)
1	Lineage	United States, etc	33,765
2	Americold Logistics	United States, etc	16,367
3	NewCold Cooperatief U.A.	United States, etc	5,194
4	United States Cold Storage	United States, etc	4,752
5	Nichirei	Japan, etc	2,654
6	Constellation Cold Logistics Sarl	Belgium, etc	2,175
7	Emergent Cold Latin America	United States	2,028
8	FreezPak Logistics	United States	1,605
9	Frialsa Frigorificos S.A. De C.V.	Mexico	1,586
10	Interstate Warehousing, Inc	United States	1,496

Source (table): Compiled by Nichirei based on Global Cold Chain Alliance document
“Global Top 25 List” as of April 2025

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。